



次官ヨリ関東軍参謀長宛照會

首題ノ件別冊ノ通省部間ニ於テ成案ヲ得

タルニ付貴見至急御開示相煩ニ度

追テ亦件ノ取扱ニ関シテハ關係各省ノ協議

ヲ經テ閣議ニ上提致シ度キニ付申添フ

陸滿密第一四九號 昭和八年三月廿五日



秘  
藏

滿洲國指導方針要綱案

方  
針

大日本帝國ノ滿洲國指導ハ日滿議定書ノ精神ニ立脚シ滿洲國ヲ政治、經  
濟、國防等諸般ノ關係ニ於テ大日本帝國ト不可分の關係ヲ有スル獨立國  
家トシテ進歩發展セシムルコトヲ以テ根本方針ト爲ス

要  
綱

一、帝國ノ滿洲國指導ハ努メテ滿洲國ノ社會的特性ニ順應シ且同國獨立ノ  
體面ト舊來ノ慣習トヲ尊重シ依テ以テ民族的自尊心ノ躍動ヲ促シ且上  
下官民ニ光明ト安心トヲ與ヘ萬民進ンテ建國ノ大業完成ニ邁進セシム

0526

八  
三  
二  
四  
陸  
軍  
省

ル如ク誘導スヘキモ此ノ間帝國ノ指導的威力ノ絶エサル潜在的躍動ヲ  
保續スルヲ要ス

二、滿洲國ニ對スル指導中國防、外交及日滿經濟運営上ノ基礎的事項竝ニ  
國體ノ根本確立ニ關スル重大内政事項ニ就テハ積極的ニ之ヲ指導スル  
モ爾餘ノ點ニ就テハ努メテ滿洲國要路ノ自由裁量ニ委スルモノトス

三、滿洲國ノ政體ハ立憲君主制ヲ究極ノ目標トスルモ當分ハ現制ノ下ニ其  
ノ内容ノ充實ヲ期セシムルモノトス

四、滿洲國ニ對スル指導ハ現制ニ於テハ關東軍司令官ノ内面的統一指導ノ  
下ニ日系官吏ヲ通シテ實質的ニ之ヲ行ハシムルモノトス

日系官吏ハ滿洲國指導ノ樞軸タルヘキヲ以テ之カ簡拔推舉ヲ適正ナラ  
シムルハ勿論特ニ之等日系官吏ノ統制ヲ便ニシ且之カ活動ノ中心ヲ得

シムル爲總務廳中心ノ現制ヲ維持セシムルモノトス

五 滿洲國ノ行政ハ極端ナル中央集權ヲ排シ成シ得ル限り地方自治ノ傳統ヲ尊重シ中央集權ト地方自治トノ調和ニ着意シ各級制度ノ改變ハ漸ク以テ進マシムルモノトス

滿洲國ニ於ケル政黨及政治的團體ハ當分之ヲ存在セシメサル如ク指導スルモノトス

六 滿洲國成立ノ特殊性ト同國內外ノ事情トニ鑑ミ特ニ查察機關ヲ整備充實セシメ關東軍ト連繫ノ上内外ヨリスル政治的並思想的國家發展運動ヲ未然ニ防遏スルコトニ努メシムルモノトス

七 滿洲國ノ外交政策ハ東洋平和ノ保障ヲ確立シ東洋文化ノ精ヲ世界的ニ宣揚セントスル帝國ノ外交政策ニ依拠セシメ之ト同一歩調ニアラシム

ルモノトス

門戸開放機會均等ノ原則ヲ標榜セシムルモ其ノ適用ハ主トシテ國防上ノ要求ニ制約セラレサル事業ニ之ヲ限定セシムルモノトス

八、滿洲國ノ經濟政策ハ帝國ノ對世界的經濟力發展ノ根基ヲ確立シ併テ滿洲國ノ經濟力ヲ強化スル爲日滿兩國ヲ一經濟單位ニ融合スルヲ究極ノ目標トシテ之ヲ策定セシムルモノトス

九、滿洲國ノ經濟開發ニ方リテハ帝國々防上ノ要求ニ制約セラルルモノハ之ヲ帝國ノ實権下ニ置クモ其ノ他ノモノハ主義トシテ滿洲國ノ實権下ニ在ラシムルモノトス

○、滿洲國ノ財政ハ國民ノ負擔ヲ是正スル着意ノ下ニ速ニ之ヲ確立セシメ其ノ餘裕ヲ以テ帝國駐滿軍費ヲ分擔スルコトニ努メシムルモノトス

帝國政府ノ對支固定借款中滿洲國ニ關係アル部分ノ利用乃至回收ハ主義トシテ當分之ヲ行ハサルヲ本則トス

一、滿洲國ニ於ケル交通及通信ハ國防並治安維持ト特ニ緊密ナル關係ヲ有スルヲ以テ帝國政府ノ實權下ニ於テ可及的速ニ諸施設ノ統一の整備發達ヲ期セシムルモノトス

一、滿洲國ノ軍備ハ國內ノ治安維持上必要ナル限度ニ之ヲ止メシムルト雖モ防禦的施設ハ所要ニ應シ之カ完整ニ努メシムルモノトス

特ニ私兵の勢力ノ割據ヲ嚴戒シ中央統制ノ實ヲ舉ケシムルモノトス

一、滿洲國民ノ教育調化ニ就テハ文化主義ニ隨セス勞作教育ニ力點ヲ注キ中等程度以下ノ實業教育ヲ振興セシムルモノトス





次官ヨリ關東軍參謀長宛電報（暗號）

關參滿五二三返

滿洲國指導方針要綱ニ對スル貴見了承。本要綱案ニ關シテハ本案ヲ以テ決定案トナスニアラス、關係各省ト協議ノ上多少ノ修正ヲ見ルヤモ計ラレサルヲ以テ行文、字句等ノ修正ハ暫ク措キ主トシテ主義上ニ於ケル重要點ニ關シ意見ヲ纏メ度ク付テハ貴見ニ對スル當方ノ見解ヲ述フレハ次ノ如シ

一、要綱一、三、三、八、九及追加條項ニ關スル貴方ノ意見ハ主義ニ於テ當方ノ見解ト大ナル差異ナキヲ以テ貴見ヲ參照シ適宜、字句、行文及條項ヲ修正若クハ整理スルコトト致シ度シ

二、要綱四ノ第一項ノ修正並第二項ノ「指導ノ樞軸」ヲ「運營ノ中核

ト修正スル意見ニハ同意ナルモ其ノ他ノ事項ニ關シテハ次ノ理由ニ依リ當方ノ原案ヲ以テ進ムルコトト致シ度シ

(1) 總務廳中心ノ現制度ハ自由主義ニ立脚スル政府組織法ノ弊害ヲ除去スル爲必要ナル政治學理ニ根據ヲ有シ之ヲ滿洲國ノ國民性ニ照應スルニ特ニ其ノ必要ヲ認ムヘク更ニ日系官吏ノ質的缺陷ヲ有スル現狀ヲ補正シ併テ將來名實共ニ滿洲國運営ノ中樞タルヘキ日系官吏ノ組織的基礎ヲ確立スル爲必要ナル制度ナルヲ以テ本件ハ原案ノ儘存置スルコトト致シ度シ

(2) 日系官吏選任ニ關スル軍司令官ノ權限ヲ明記スル件ハ當方ニ於テモ趣旨ニ於テ同意ナルモ軍司令官ノ本權限獲得ノ根據ニ付テハ既ニ交換公文ニ依リ確定セル所ナルモ本件ヲ更ニ閣議等ニ於

テ論議スルトキハ爾他ノ交換交文ノ軍司令官ノ權限（鐵道管理權等）ニモ論議ヲ及ホス點虞アルヲ以テ本件ハ政策的意義ヨリ特ニ明記ヲ避ケタキ意見ナリ。

三、治外法權及司法制度ニ關スル件ハ兩件ヲ併セテ一項トシ次ノ如ク修正スルコトト致シ度シ

「滿洲國ノ法制ニ關シテハ特ニ同國ノ國民性ト習俗トヲ尊重シ速ニ法制及組織ノ整備ヲ圖リ依テ以テ内ハ國法ニ信倚スルノ良風美俗ヲ養成セシムルト共ニ外ハ治外法權ノ撤廢ヲ實現スルコトニ努メシムルモノトス」

陸滿三九〇 昭和八年四月七日



0535

陸軍省  
電送寫真第三〇號

電送寫真第三〇號



發信昭和六年四月五日午前八時十五分  
着信昭和六年四月五日午前八時五分

昭和六年四月五日

東京陸軍無線電纜所信

陸軍省大臣官房御中

所之印

件名 滿洲國指導方針要綱案ニ對スル意見

送付件

部 九葉

陸軍

第一號 四月四日 受付時分 午後二時四十分 送信 四時二十分 取扱者 井上

# 極秘

關參滿第五二三號

滿洲國指導方針要綱案ニ對スル意見送付ノ件

昭和八年四月四日 關東軍司令部長官小磯國昭

陸軍次官柳川平助

首題ノ件左記ノ通り送付ス

左記

八三三四 陸軍省 滿洲國指導方針要綱案ニ對スル意見

八四三三 關東軍司令部

方針異存ナシ

要綱ノ一ハ次ノ如ク修正ス

9890

二 號 四 月 四 日 二 時 分 午 時 分 二 時 分 勞 報 報 者 一 井 上

帝國ノ滿洲國指導ハ努メテ滿洲國ノ社會的特性ニ順應シ且同國  
獨立ノ體面ト舊來ノ慣習トヲ尊重シツツ民族協和ト安居樂業  
トヲ實現シ以テ上下官民ニ光明ト安心トヲ與ヘ萬民喜ンテ  
建國ノ大業完成ニ邁進セシムヘキモノトス固ヨリ此ノ間帝  
國ノ指導的威力ノ絶エサル潜在的躍動ヲ保續スルヲ要ス

理 由

(1) 要綱一ハ滿洲國指導ノ原理ヲ示スモノナルヲ以テ要綱二以  
下ニ掲クル施政、經濟開發、財政、外交、軍備等諸般ノ經  
綸ノ目標カ民族ノ協和ト安居樂業トヲ基調トスル國家  
社會ノ建設ニ存スルコトヲ明示スル為本修正案ノ如ク  
スルヲ可トス

(2) 民族の自尊心ノ躍動ヲ促スハ民族意識ヲ正常ニ指導

0530

スレノ意ト解シ得ヘキモ茲ニハ寧ロ掲記セサルヲ得策ナ  
リト見解シ之ヲ削除ス

三、要綱二ハ次ノ如ク修正ス

滿洲國ニ對スル指導中國防、外交、日滿經濟運營上ノ基礎的  
事項及治安維持其他國礎ノ根本確立、  
、  
、  
以下原案通り

理 由

現時及將來共ニ治安維持ニ關シ積極的指導ヲ行フ要ア  
ルヲ以テナリ

四、要綱四ハ次ノ如ク修正ス

滿洲國ニ對スル指導ハ關東軍司令官ノ内面的統一指導  
ノ下ニ主トシテ日系官吏ヲ通シテ實質的ニ之ヲ行ハシ  
ムルモノトス

0538

四一四三二二四一  
四一五十一  
井上

日系官吏ハ滿洲國國政運營ノ中核トシテハキヲ以テ之カ簡拔  
推擧ヲ適正ナラシムルモノトス

日系官吏ノ撰任ハ關東軍司令官ヲシテ之ニ當ラシムルモノトス

理由

(イ) 滿洲國ニ對スル指導ハ之ヲ關東軍司令官ヲシテ行ハシム  
ルヲ本則トスルノ趣旨ヲ明確ニスル爲「現制ニ於テハ」

前除ス

「要綱」三ノ「現制」下ニ「四」  
「現制ニ於テハ」トハ

全然運轉ナキモノト見解ス  
「要綱」三ノ「現制」下ニ「四」  
「現制ニ於テハ」トハ

指導ハ現下ノ執政制タルト見解ス  
君主制タルトテ問ハ

ス之ヲ關東軍司令官ヲシテ行ハ  
シムヘキモノト見解ス

(ロ) 滿洲國日系官吏ハ滿洲國官吏トシテ一意滿洲國ノ爲

ニ行動スヘキモノニシテ之ヲ以テ滿洲國指導ノ樞軸ト認



(八)

ムヘキモノニテヲ以テ修正案ノ如クス  
總務廳中心ノ現制維持ハ趣旨ニ於テ同意ナルモ特ニ中  
央ノ方針トシテ獨クルノ必要ヲ認メサルヲ以テ之ヲ削

除ス

(二)

日系官吏授任ニ關スル軍司令官ノ權限ハ大同元年三  
月十日附滿洲國執政ヨリ本庄關東軍司令官宛書翰  
及昭和七年五月十二日附同軍司令官ヨリ同執政宛回答  
文竝ニ昭和七年九月ノ日滿交換公文ニ依リ確認セラレ  
アル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ明示スルヲ要ス

(木)

滿洲國ニ對スル指導ハ其事柄ニ依リ日系官吏ヲ通ス  
ルコトナリ直接滿人ニ對シテ行フヲ可トスルコトアル  
ヲ以テ本修正案ノ如ク主トシテヲ挿入スルヲ可トス

五、要綱三八次ノ如ク修正ス

(五)

六號 四月五日 午後 時 分 前八卷三十一頁 取録者 井上

滿洲國ノ政體ハ立憲君主制ヲ究極ノ目標トスルモ當分ハ現制ヲ維持セシムルモノトス

理由

原案中「其ノ内容ノ充實ヲ期セシムルモノトス」ハ政體ノ内容充實ノ如ク解釋セラレ字句必ズシテ穩當ナラザルヲ以テ之ヲ削除スルヲ可トス

要綱七ノ第三項トシテ次ノ一項ヲ加フ

治外法權ノ撤廢ハ帝國率先シテ之ヲ行ヒ列國之ニ追隨スル如ク勉メテ速ニ諸制度ヲ完備セシムルモノトス

理由

列國ヲシテ速ニ滿洲國獨立ノ事實ヲ承認セシムルノ

(天)

第七卷 四月 五日 午後五時分 前編 四十五分 頁 井 上

手段並帝國臣民ノ自由ナル對滿發展ノ上ヨリ見テ速ニ諸制度ヲ完備セシメ以テ治外法權撤廢ヲ實現セシムルノ要アルヲ以テ本項ヲ加フ

七、要綱八八次ノ如ク修正ス

滿洲國ノ經濟政策ハ滿洲國ノ經濟力ヲ強化スルト共ニ帝國ノ對世界的經濟力發展ノ根基ヲ確立スル爲日滿兩國ヲ一經濟單位ニ融合スルコトヲ目標トシ且民生ノ向上ト平衡トヲ保障スル如ク策定スルモノトス

理由

(1) 原案ハ行文上滿洲國ノ爲ニ計リテ厚カラサルヤノ疑惑ヲ生スヘキヲ以テ本修正案ノ如ク記述ノ順序ヲ顛倒ス

(E)

(口) 經濟政策究極ノ目標ハ日滿經濟ノアロツクヨリ進

テ東亞經濟ノアロツクノ構成ニ存スヘキヲ以テ究

極ノノ字句ヲ削除ス

(ハ) 國家經濟偏重ヲ戒メ且<sup>(資本)</sup>主義ノ惡弊ヲ除去スヘキコト

ハ經濟政策上ノ一眼目タルヲ以テ後段ノ修正ヲ加フ

八、要綱九ハ次ノ如ク修正ス

滿洲國ノ經濟開發ハ日滿共同ヲ精神トシ帝國國防上ノ要

求ニ制約セララルモノハ之ヲ帝國ノ實權下ニ置キ其他ノモノ

ハ主義トシテ滿洲國ノ實權下ニ於テ之ヲ行ハシムルモノトス

理由

日滿共同ノ精神ヲ擴充スルコトニ依リテ兩國協和ノ紐帶

ヲ確乎タラシムル爲本修正ノ如クスルヲ可トス

(八)

第九號 四月五日 受持時分 五分 井工

九、次ノ一條ヲ加フ

滿洲國ノ司法ニ關シテハ其法制ト組織トヲ整備スルノ外特ニ司法官ノ人選及養成ヲ適切ニシ國民ヲシテ安シテ國法ニ信倚スルノ風習ヲ養成セシムルモノトス

理由

滿洲國ノ現状ニ鑑ミ司法權ノ確立ハ特ニ急務トスル所ニシテ又治外法權撤廢ノ前提タルヲ以テ本一條ヲ特設スルノ要アリ

(終)

(九)